

たま子は悪霊から
逃げられた
なかつた

作
切傷甲



「今 異次元との
回線が繋がったわ！
さあ 質問を……」

ガラッ!

「またお前らか!!
いい加減にしろ!!」

「コックリマンは
禁止だと言ってる
だろうが!!」

「ひいちゃん
ちよっこ
くらひ……」

「コックリマンじゃ
ありません!!」

「宇宙人との
チャネリングを……」

「やかま
しいっ!!」

「ギヤーツ!!」

「幽霊だの宇宙人だの
馬鹿馬鹿しじろ!!」

「学生は学業に
専念せんかっ!!」

「……ん」

「こんな物があるから生徒がオカルトに傾倒するんだ!」

「封印」



「んんん」

「!?」

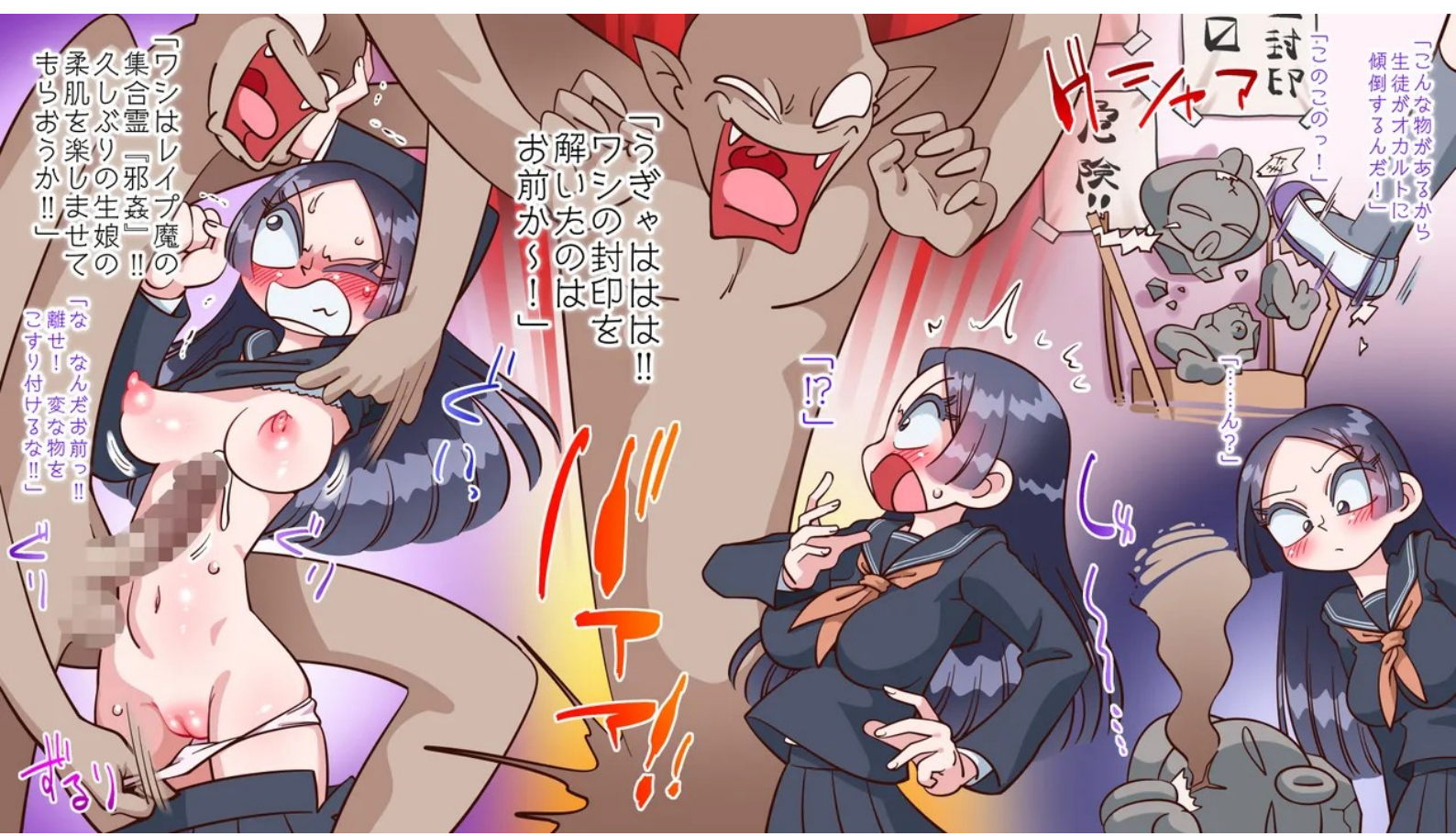
「うぎゃははは!!
ワシの封印を
解いたのは
お前か!」

「ワシはレイプ魔の
集合霊『邪恣』!!
久しぶりの生娘の
柔肌を楽しませて
寺らおうか!!」

「な なんだお前っ!!
離せ! 変な物を
こすり付けるな!!」

「んんん」

「ははは」





「金縛りの術!!」

「うっ」

「レイプは処女に限るんじゃ!! ひゃひゃひゃ!!」

「ややめっ いやっ……」

「いやあああっ!! 痛いっ!! 痛いっ!!」

「うひゃひゃっ 膣が若すぎて 根本まで入らんわい!!」

「……」

「あ…… なんなんだコイツ…… 本当に幽霊……?」

「うっ」

「あ…… なんなんだコイツ…… 本当に幽霊……?」



「ひっ ひぎっ
ひいひいひいっ」

「十数年ぶりの種付けじゃ！
濃ゆいのをたっぷり
注いでやるわい！」

「あっウツッ！！
いやああッ！！」

「あーあ……
……そんな……」

「中に……
出されてる……」

「ふくらっ！
気分爽快じゃ！」

「今日からは
ワシら悪霊達が
お前さんの主じゃ！」

「いや……そんな
私の処女が……」

「ハッ
ハッ
ハッ」

「ゴッ
ゴッ
ゴッ」

「びゅ
びゅ
びゅ」

「ハッ
ハッ
ハッ」

「ハッ
ハッ
ハッ」

「ハッ
ハッ
ハッ」



「うう……まだ痛い……
まさか本当に悪霊が
存在するなんて……」

「性奴隷の
たま子ちゃん
今度はオイラと
遊ぼうぜ〜!」

ドキッ!

「レイプさせろや
メス犬ウ!!」

「美味やうな
ニオイが
するぜ〜!」

「うわー!!
来るなー!!」

うわー!!
うわー!!
うわー!!

ビ

人面犬!?

「いっやっ!
痛っ! いやあッ!!」

「処女喪失したて
中学生マンコ
最高ーッ!!」

とほ
とほ



「おらーっ!!
もつと種付け
させろーっ!!」

「はあっ はあっ
か 勘弁
してくれ……!」

「汚れまみれだ……
シャワー浴びよう」

—……

「……え?
誰か居る?」

「えっ!? えっ!?
わ 私がもう一人!?
ど どういう事!」

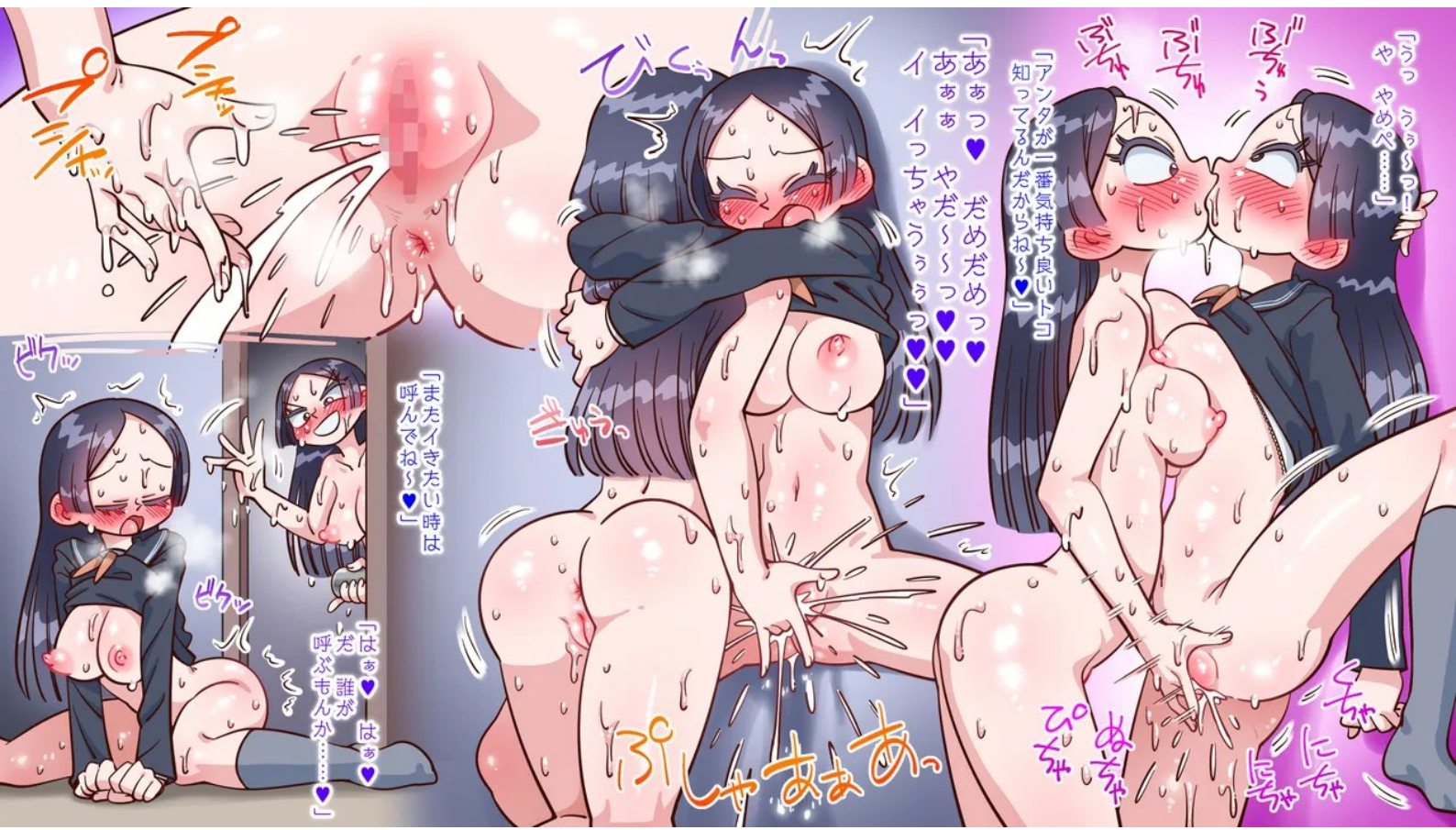
「どっぺんこっぺん
ねーよ!!!」

「ドッペルゲンガーに
決まってるんだろ?
うひひひひっ!」

ぴんぴん
にちや
にちや

グ
ラ
ッ

グ
グ
グ



「うっ、うっ、うっ」
「やめなさい」

「あなたが一番気持ち良いところ
知ってるんだからねっ♡」

「ああっ♡ だめだめっ♡
あああ やだくっ♡♡♡
イッちゃうっ♡♡♡♡♡」

びんっ

きゅう

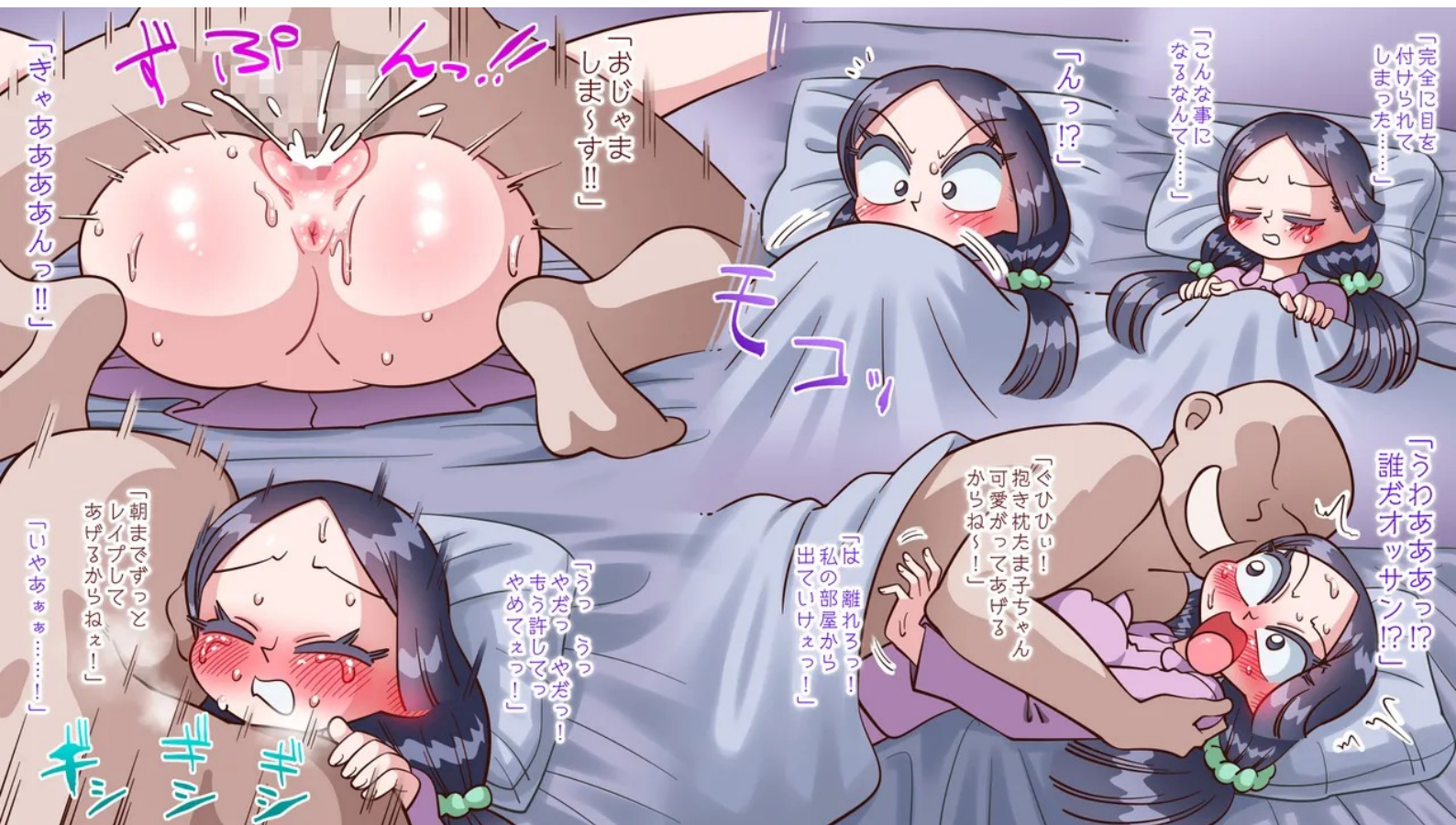
ぶしゃああ

おんおん
おんおん
おんおん

「またいきたい時は
呼んでねっ♡」

「はあ♡ はあ♡
だ誰が
呼ぶもんか……♡」

びんっ
びんっ



「完全に目を付けられてしまった……」

「こんな事になるなんて……」

「んっ!?」

「おじさま
しまゝす!!」

モッコッ

「うわあああっ!?
誰だオッサン!?!」

「ぐひひい!
抱き枕たま子ちゃん
可愛がってあげる
からね〜!」

「は 離れろっ!
私の部屋から
出ていけえっ!」

「うっ うっ
やだっ やだっ!
もう許してっ
やめてえっ!」

「ギゃあああんっ!!」

「朝まるすっこん
レイプして
あげるからねえ!」

「じゃああ……!」

ギンギンギン



「あああ、いやあ、
中に出くさるっ！」

「ふー、ふー、
全部注ぐ
からね！」

「あああ
汚じやない……」

「身体使わせてくれて
ありがとね、
たま子ちゃん！」

「あう、あう……
本当に朝まで
犯された……」

「うっ、うっ
やだっ、やだっ
ぐすっ、ぐすんこ」

おちんちん！

おちんちん！

どろおちんちん……

「ええっ!?
あの石像
壊したの!?

「うん……
どうにか
ならんか……」



「噂では
悪霊を封じた
霊具が旧校舎に
隠されている
とが……」



「それがあれば
悪霊を倒す事が
出来るんだな?」

「うん……
でも旧校舎には
色んな怪談が
あるの……」

「どんな霊や妖怪が
飛び出してくるか……」

「どれだけ危険でも
やるしかない
……入るぞ!」

「どこに何が
隠れているか
わからん
気を付けろ!」



「キヤーン!!」

「う美!!」





「触手妖怪よぐ!!!
妖怪の子供を
産みつけられるわ!!!」

「なんじゃ
そりゃ!?!」

「いやーん!!!」

「うう美!
まずいっ!
ええしくそっ!」

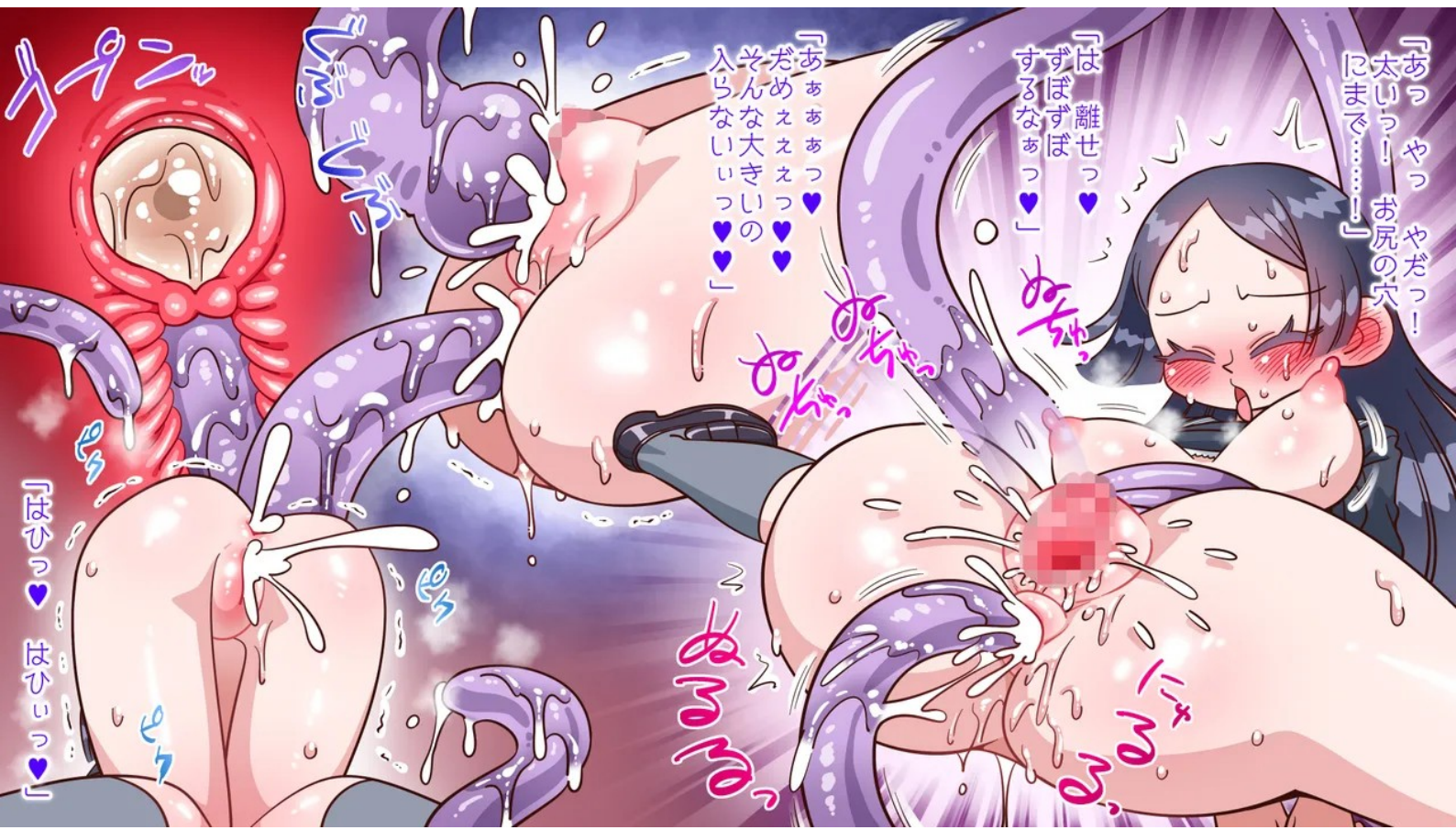
どいっ

「あわわ……
産み付けるって
まさか子宮にか!?!」

ウネ

ウネ

ウネ



「あっ やっ やだっ！
太いっ！ お尻の穴
にまぐ……！」

「は 離せっ ♡
ずばずば
するなあっ ♡」

「あ あ あっ ♡
だめ え え えっ ♡
そんな大きいの
入らないいっ ♡」

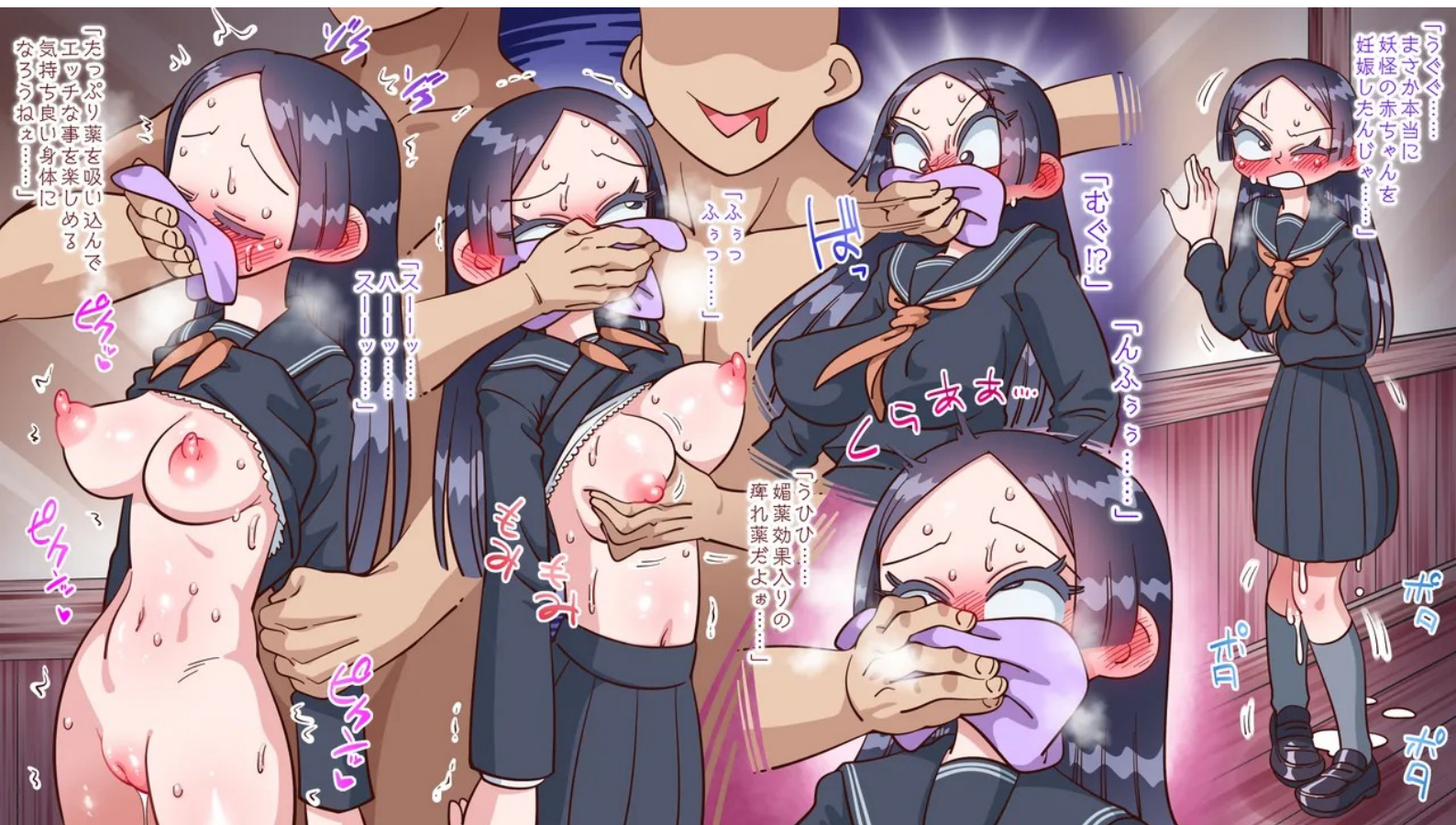
クワン

「はっ ♡ はっ ♡ はっ ♡」

お尻っ
お尻っ
お尻っ

お尻っ
お尻っ
お尻っ

お尻っ
お尻っ
お尻っ



まさか本当に
妖怪の赤ちゃんを
妊娠したんじゃないか……

「ま……」

「んふらう……」

「うひひ……
媚薬効果入りの
痺れ薬だよ……」

「ふらっ
ふらっ……」

「ス……
ス……」

「たっぷり薬を吸い込んで
エッチな事を楽しめる
気持ち良い身体に
なろうね……」

ポ
ポ
ポ

き
き
き

く
く
く

き
き
き



「たま子ちゃんのお尻の肉モチモチだねえ」

「んっ……ふんっ……」

「たま子ちゃんの膣に僕の精液を染み込ませるよおっ」

「んふうううんっ」

「たま子ちゃんのビチビチ中学生膣楽しかったよお」

「ははっ……ははっ……」

「薬の効果が切れるまでしばらくそのまま楽しんでねえ」

「あ……あ……」

ゴポッ

んんん!!

はははっ

んんん

すすす

ぬぬぬ

んんん



ゴゴゴゴゴ

「は 離せー!
私に 触るなー!」

「どこぞのゴロム、
何ぞお前ら!?」

「うわーっ!?
誰だ私のパンツ
下ろしてるのは!?」

「はぁ♡♡はぁ♡♡
エモロ……♡♡♡♡」

ぐわ

「こっちよくん♡
「えっ!?」

ゴゴ

ゴゴ

「んっ♡♡
「!!」

びっしょり!

「うっ……
も、もうスカート
履く気にもなれん……」

「霊具とやらは
一体どこに
あるんだ……」





「いやだっ！
中学生なのに
出産なんが
いやだっ！」

「ううそっ！
まさかあの
触手の奴が!?」

「えっ………!?」

「離せこの！
気色悪い！」

とどどど

「行っちゃいやんなら
モロと遊ばあつ♡♡♡」

びびびび

びびびび

ぼて

「なんだ
気分が……？」

「……」



「ああ……
私はママのボニー
勤弁して……」

「おぎやあ！
おぎやあ！
ママ！ママ！
うひやひや！」

「ひびっ
ひびっ
はひっ
はひっ……」

「ひびっ
ひびっ！
ふらっ
ふらっ！
はひっ
はひっ！
早く出てええっ！」

「おぎやあ！
おぎやあ！
ママ！ママ！
うひやひや！」

「おぎやあ！
おぎやあ！
ママ！ママ！
うひやひや！」

「おぎやあ！
おぎやあ！
ママ！ママ！
うひやひや！」

「おぎやあ！
おぎやあ！
ママ！ママ！
うひやひや！」

「おぎやあ！
おぎやあ！
ママ！ママ！
うひやひや！」



「はあ はあ
なんだコレ？」

「市しかして
霊具って
コレか!？」

動かすな
融るな

封印中!!

「うっひっひ!!
こう使うんじゃよお!!」

「う美!?
お前まさか
乗っ取られた
のか!？」

「うひひ、ご名答!
そしてコレは
悪の力を増幅する
呪具なのじゃよ!」

「手下達が流した
噂にまんまと騙され
おって……
うひゃひゃー!」

「ぞっ
ぞんなっ!」

「ついに
手に入れた
ようだな……!」

「う美!
無事だったのか」
「コレどうやって
使うんだ!？」

「逃げても無駄じゃ!
お前はワシの性奴隷
なんじゃからなりっ!」

「や やだっ!
誰か助けてえっ!!」

だだだっ

のい のい

ヒッヒッ!!



「んぷっ……んぷっ……」

びびび

びびび

んぷっ んぷっ んぷっ

「んぷっ んぷっ んぷっ……」

「上手じゃん
たま子ちゃん！
性奴隷向いてる
んじゃない？」

「んぷっ んぷっ……」

「もう出すよ
たま子ちゃん！
たっぷり飲んで
もううからね！」

「んぷっ……んぷっ……」

「そんな顔で睨まれたら
ゾクゾクしちゃうなア！」

「んぷっ……んぷっ……」

んぷっ

んぷっ んぷっ

ゴクゴク

んぷっ んぷっ



「そこのロッカーが空いてるから隠れなよ〜」

「はぁ はぁ……喉がイガイガする……」

「おい！夫ま子を知らんか？」

「いや、見てないですねぇ〜」
「そうか〜〜〜」
「知らんか〜〜〜」

「にゅっ！」

「んっ!?」

「しっ！静かにしないと邪姦様にバレちゃうわよ？」

「ずるんっ！」

「んっんっんっ……」

「大丈夫、ちよつとおまんこ使うだけだから♡」

「ちよつとだけ♡ちよつとだけ♡」

「ほちんっ！ほちんっ！ほちんっ！ほちんっ！」



「み 見つけた
出口だ……」

「は 早く
逃げなきゃ……」

「こ 子供に
なってる!？」

「うひひひっ！
オイラの
若返りの術で
えっちで可愛い
ロリっ子ちゃんに
なれたねえ!」

「ま まさが……
この身体
私を……」

「レイプアツツ!!」

「やだっっっ!!」

「えっ?」

「すんっっ……!」

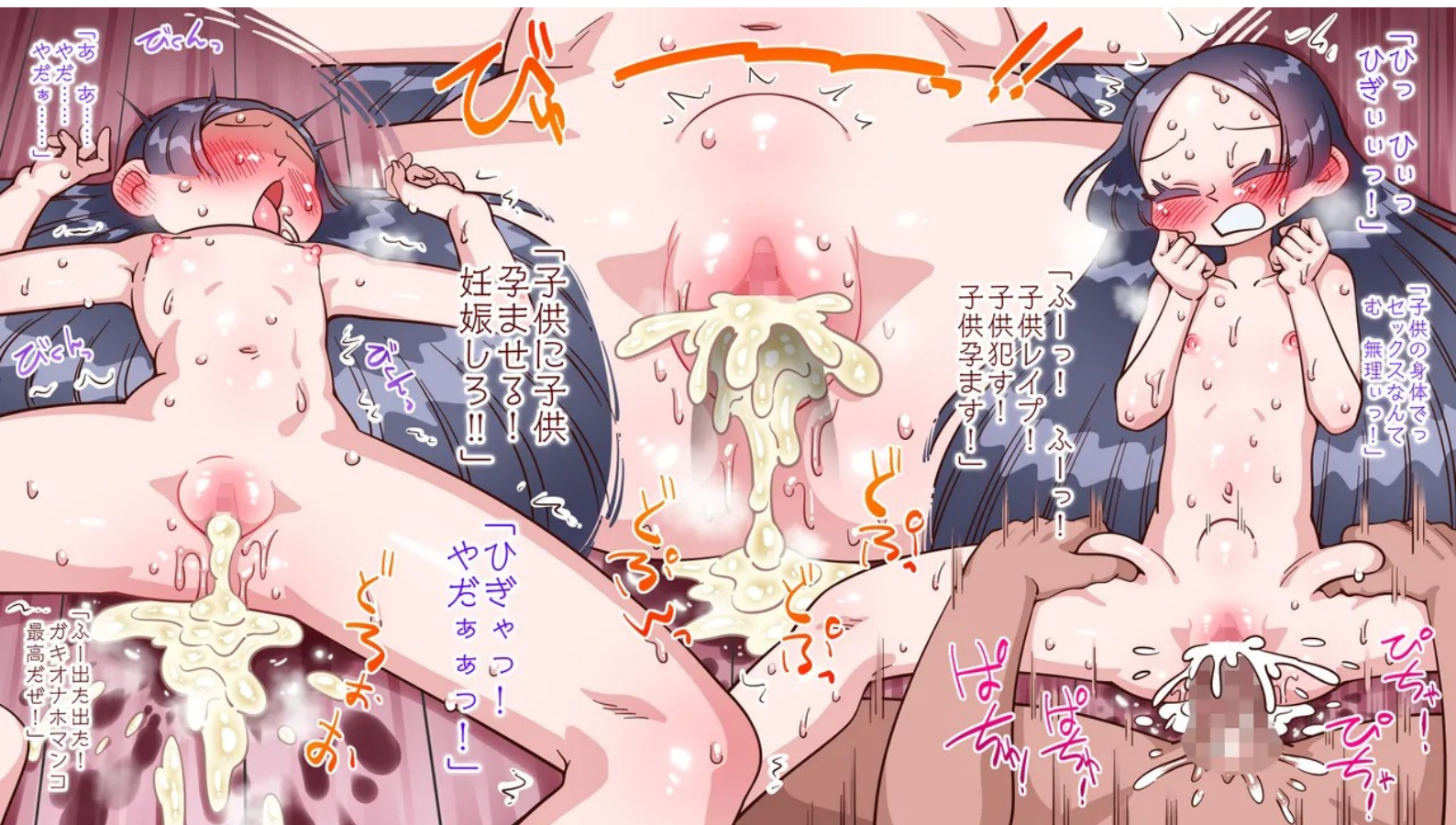
「んっ!!」

「あっ あぐっ
やだっ 苦しうっ!
この身体じゃ
おちんちん
大きすぎるっ!」

ぬんっ
ぬんっ
ぬんっ

ガッ

ガッ



「ひっひっひっ
ひぎこじっ」

「子供の身体でっ
セックスなんて
お無理じっ」

「ふっ！ ふっ！
子供レイプ！
子供犯す！
子供孕ます！」

「子供に子供
孕ませる！
妊娠しろ！！」

「ひぎやっ！
やだああっ！」

「あーあ
やだ
やだあ」

「ふっ！ 出た出た！
ガキオナホマンコ
最高だぜ！」

「んんん
おっ
おっ
おっ」

「おっ
おっ
おっ」

「ひっ！
ひっ！
ひっ！」



「……」

「目覚めたようじゃな
お前はもうワシの手中じゃ！
逃げる事は出来んぞ！」

「ひうっ……
そんな……」

「ひゃひゃひゃー！
ぬめったいのう！
犯されまくってすっかり
膣が出来上がってるわい！」

「あっ♡ あっ♡
奥だめっ♡ あっ♡
届いてるうっ♡」

「完全体となった
ワシのペニスに
勝てる女なんぞ
おらんのじゃ！」

fermo

ぬ
ひん
ひん

お
お
お

お
お
お

び
び
び

び

び
び



「あつ あつ♥
あぁあつ♥あぁ.....♥
注がれてるうう.....♥」

「子宮タプタプに
サれてるうう.....♥」

「ふーっ
お前の身体も良いが
このデカ乳女の身体も
動きやすくていいわいー」

「はーっ♥
はーっ♥」

「しかし
すっかり女の顔に
なっちゃもんじゃ!」

「はあ.....
はあ.....」

「そのうるんだ目が
もってレイプしてくれと
物語ってるぞ!」

「ちゅーちゅー」

「はくん」

「ガク」

「お望み通り 何度だって
犯してやるがらのぞ!」

「ぽろぽろ」

「びろろ」

「びろろ」

「ちゅーちゅーちゅー
はははは」

「んっ.....」



「諸君！
ワンの新しい
ペットを
紹介して
やるぞ！」

「……………」

「美少女中学生の
たま子ちゃんじゃ！
風紀委員も務めてる
真面目な女の子じゃぞ！」

「うひひー
エロいぜー」

ぐちゃ
めちゃ

「……………」

「みんな仲良く
するんじゃぞ！」

「うふふ♥
皆で楽しくたま子ちゃんの
おマンコを使いましょ♥」

くほあ♥

「いっばい犯して
たま子ちゃんを
セックス大好きな
女の子に変えてあげましょ♥」

「やっばい♥♥♥」



「どれどれ
ではまずは俺が
味見を……」

「お！
こりゃ確かに上玉だ！
中学生とは思えない
上品な膣ヒダが
ペニスに絡みつくぜ！」

「あっ♡
やだっ♡
あっ♡
やだっ♡」

「しかもレイプで身体は
大喜びだと来てやがる
性奴隷の素質十分だな！」

「はっ♡
中出てる♡
せーえき出てくる♡」

「あはあ
あああんっ♡♡♡」

「中出しのたびに
意識飛びかける程
イってやがるぜ」

「脳みそがマンコと直結して
ペニスの刺激中毒に
なっちまってるみてえだな」

「はっ♡
中出てる♡
せーえき出てくる♡」

「あはあ
あああんっ♡♡♡」

「お！
こりゃ確かに上玉だ！
中学生とは思えない
上品な膣ヒダが
ペニスに絡みつくぜ！」



「あぁっ そんなっ
また妊娠してるっ！」

「この時間の流れは
どうなってるんだっ！」

「ひーっ！ ひぎっっ！
早く出てけっ！
私の体から……
出ていけええっ！」

「大変そうね
手伝って
あげるわ♥」

「あっ あっ
やめっ……！」

「ひいんっ!!」

「すくすく育って
ママをレイプ
しましよっね♥」

「アひゃっ ばぶっ
ママ れいぶっ」

「はい
お誕生
おめでとう♥」

「はい
お土産♥」



「ひゃっひゃっひゃー!
どんな気分じゃあ?」

「くそっ……!!
覚えてろ!」

「ちよっどく!!!
私の身体
返しなさいよ!!!」

「あぁんだめくっ♥♥♥
たま子さんテクいいくっ♥♥♥♥♥」

「たぶん♥
ちよっ可愛がって
あげてわ♥」

そそそそ

だっ
あ
あ

終

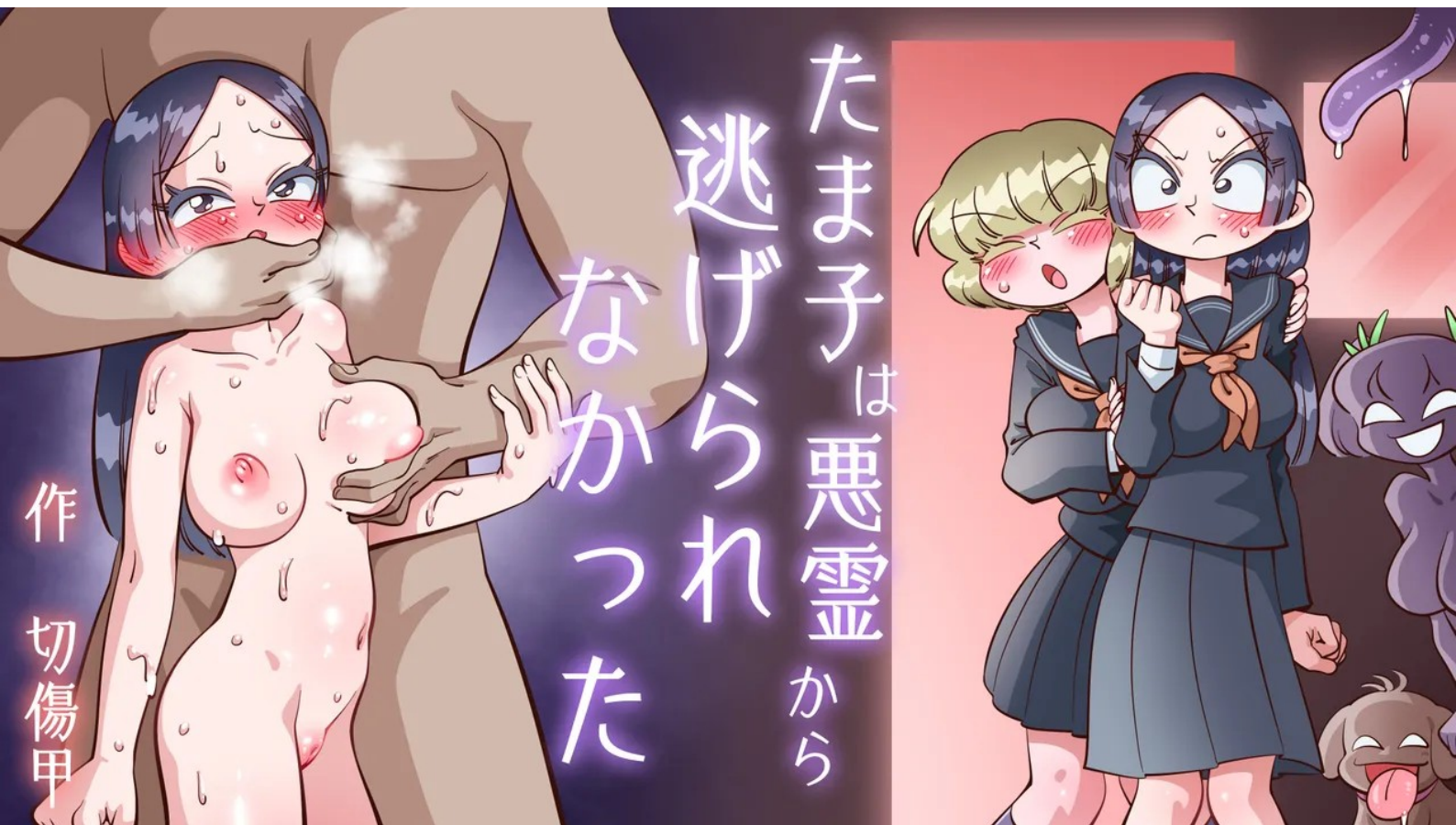
たま子は悪霊から逃げられなかった

終

著者 切傷甲
配信開始 2025年12月

■ブログ
<https://ci-en.dlsite.com/creator/4699>
■SNS
<https://x.com/kirikizu1>
■ご意見・ご感想など
https://odaibako.net/u/kirikizukoh_post





たま子は悪霊から
逃げられた
なかつた

作
切傷甲



「今 異次元との
回線が繋がったわ！
さあ 質問を……」

ガラッ！

「またお前らか!!
いい加減にしろ!!」

「ヨックリマンは
禁止だと言ってる
だろうが!!」

「ひいちゃん
ちよっこ
くらひ……」

「ヨックリマンじゃ
ありません!!」

「宇宙人との
チャネリングを……」

「やかま
しいっ!!」

「ギヤーツ!!」

「幽霊だの宇宙人だの
馬鹿馬鹿しじろ!!」

「学生は学業に
専念せんかっ!!」

「……ん」

「こんな物があるから生徒がオカルトに傾倒するんだ!」

「封印」



「んんん」

「!?」

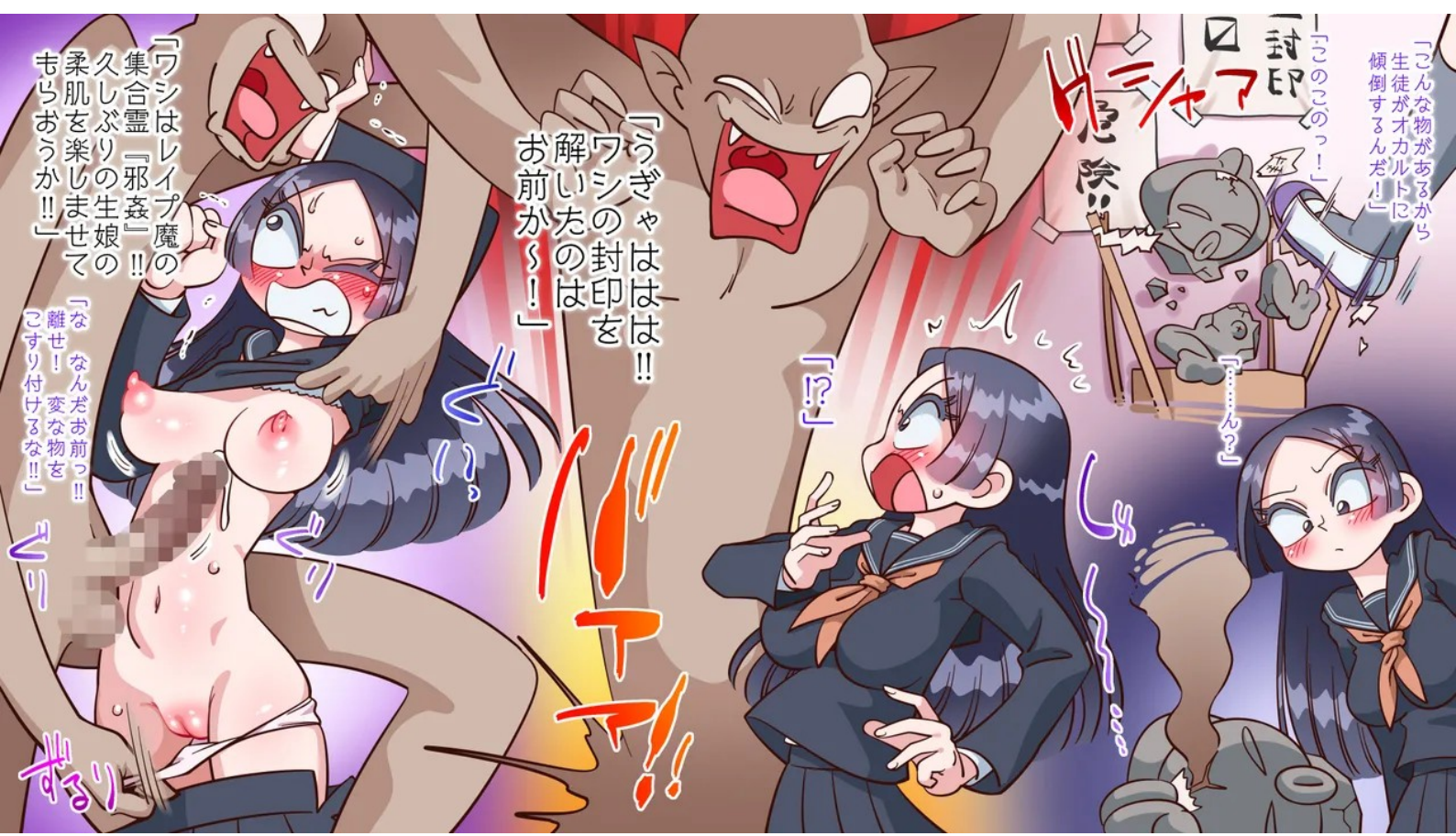
「うぎゃははは!!
ワシの封印を
解いたのは
お前か!」

「ワシはレイブ魔の
集合霊『邪恣』!!
久しぶりの生娘の
柔肌を楽しませて
寺らおうか!!」

「な なんだお前っ!!
離せ! 変な物を
こすり付けるな!!」

「んんん」

「ははは」





「金縛りの術!!」

「うっー」

「レイプは処女に限るんじゃない! ひゃひゃひゃ!」

「ややめっ いやっ……」

「いやあああっ!! 痛いっ!!」

「痛いっ!!」

「うひゃひゃっ 膣が若すぎて 根本まで入らんわい!!」

「……」

「あ…… なんなんだコイツ…… 本当に幽霊……?」

「うっー」

「あ…… なんなんだコイツ…… 本当に幽霊……?」



「ひっひぎっ
ひいひいひいっ」

「十数年ぶりの種付けじゃ！
濃ゆいのをたっぷり
注いでやるわい！」

「あっウツッ!!
いやああッ!!!」

「あーあ
そんな……」

「中に……
出されてる……」

ブルッ

「ふくらっ!
気分爽快じゃ！」

「今日からは
ワシら悪霊達が
お前さんの主じゃ！」

「いや……そんな
私の処女が……」

びしょびしょ

びしょびしょ!!

びしょびしょ
びしょびしょ
びしょびしょ



「うう……まだ痛い……
まさか本当に悪霊が
存在するなんて……」

「性奴隷の
たま子ちゃん
今度はオイラと
遊ぼうぜ〜!」

ドキッ!

「レイプさせろや
メス犬ウ!!」

「美味やうな
ニオイが
するぜ〜!」

「うわー!!
来るなー!!」

うわー!!
うわー!!
うわー!!

ビ

「人面犬!」

「いっやっ!
痛っ! いやあっ!!」

「処女喪失したて
中学生マンコ
最高ーッ!!」

とほ
とほ



「おらーっ!!
もつと種付け
させろーっ!!」

「はあっ はあっ
か 勘弁
してくれ……!」

「汚れまみれだ……
シャワー浴びよう」

—……

「……え?
誰か居る?」

「えっ!? えっ!?
わ 私がもう一人!?
ど どういう事!」

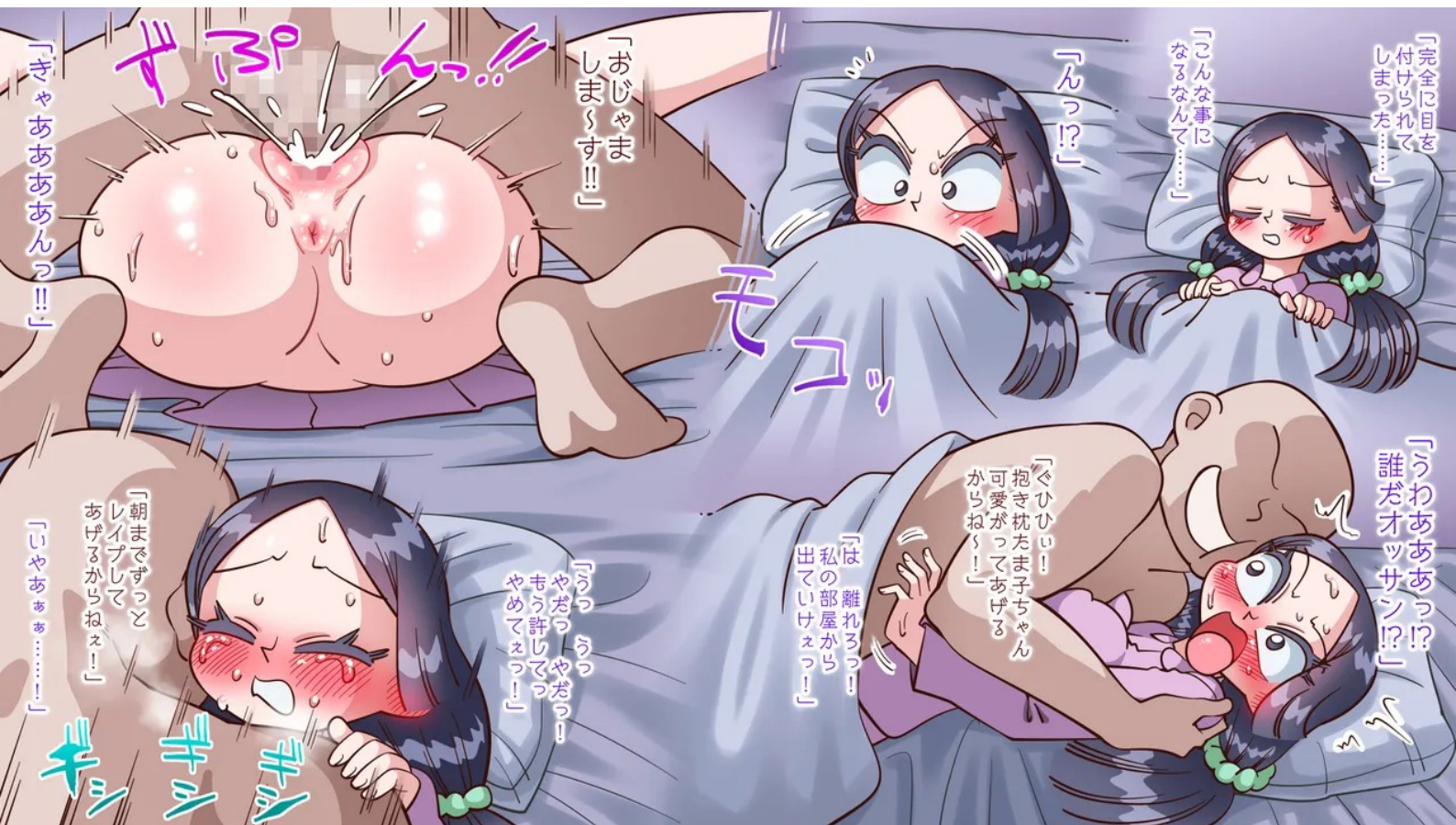
「どッペルゲンガー
ねーよ!!!」

「ドッペルゲンガーに
決まってんだろ?
うひひひっ!」

ぴち
ぴち
に
ちゅ

グ
ラ
ッ

グ
グ
グ



「完全に目を付けられてしまった……」

「こんな事になるなんて……」

「んっ!?」

「おじやましまさず!!」

モッコッ

「うわあああっ!? 誰だオッサン!?!」

「ぐひひい! 抱き枕たま子ちゃん可愛がってあげるからね〜!」

「は 離れろっ! 私の部屋から出ていけっ!」

「うっ うっ やだっ やだっ! もう許してっ やめてえっ!」

「朝まるずっとレイプしてあげるからねえ!」

「じゃあ……!」

ギンギンギン

ザッパッパッ



「あああ、じゃあっ、
中に出くさるっ！」

「ふー、ふー、
全部注ぐ
からね！」

「うっ、
やだっ、
ぐすっ、
ぐすんこ」

おちんちん！

おちんちん！

「あああ、
汚いっ！」

「身体使わせてくれて
ありがとね、
たま子ちゃん！」

「あう、あう、
本当に朝まで
犯された……」

どろおちんちん……

「ええっ!?
あの石像
壊したの!?

「うん……
どうにか
ならんか……」



「噂では
悪霊を封じた
霊具が旧校舎に
隠されている
とが……」



「それがあれば
悪霊を倒す事が
出来るんだな?」

「うん……
でも旧校舎には
色んな怪談が
あるの……」

「どんな霊や妖怪が
飛び出してくるか……」

「どれだけ危険でも
やるしかない
……入るぞ!」

「どこに何が
隠れているか
わからん
気を付けろ!」



「ええ……」



「ギャーッ!!」

「う美!!」





「触手妖怪よぐ!!!
妖怪の子供を
産みつけられるわ!!!」

「なんじゃ
そりゃ!?!」

「いやーん!!!」

「うう美!!
まずいっ!
ええしくそっ!!」

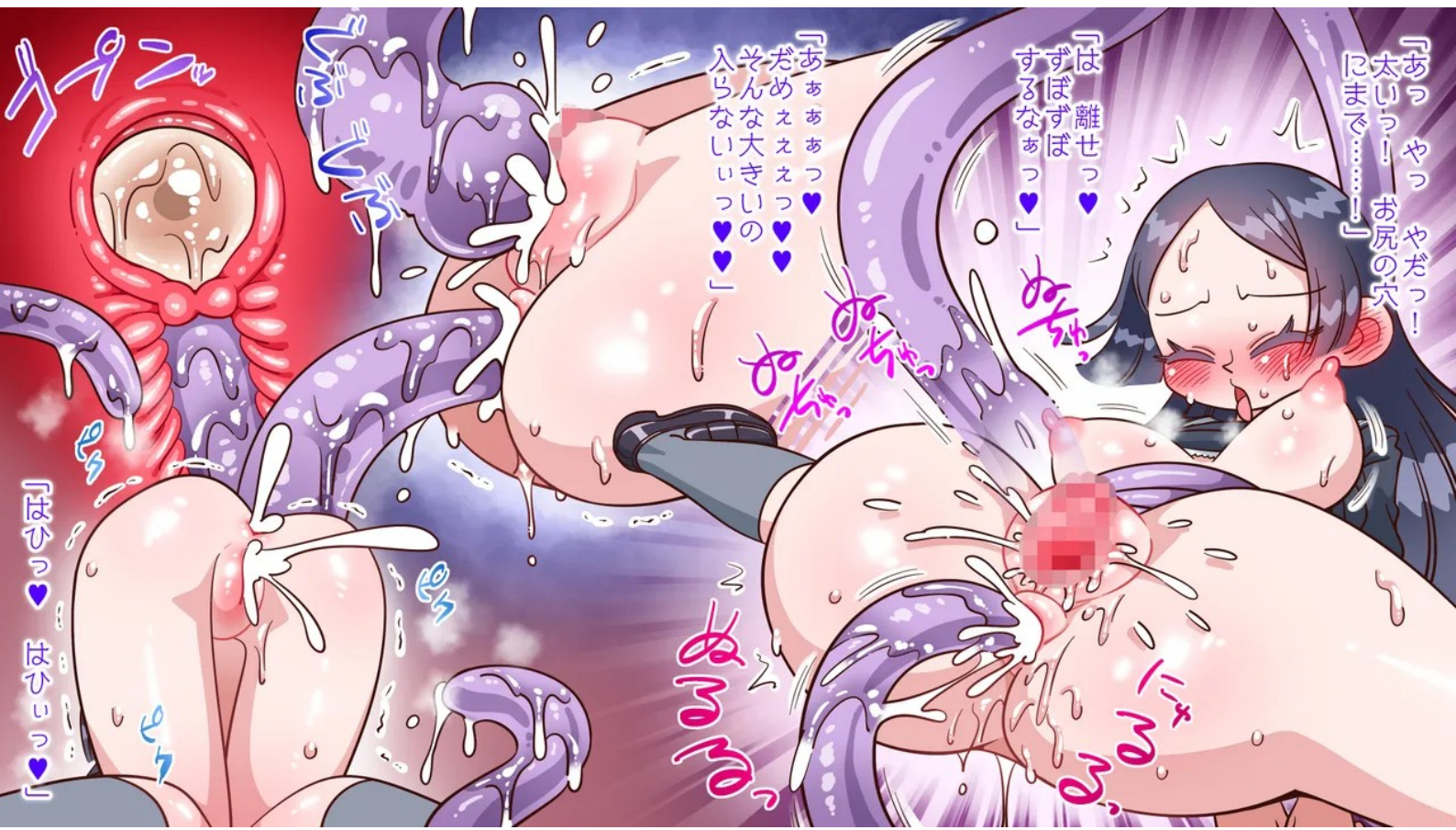
どいっ

「あわわ……
産み付けるって
まさか子宮にか!?!」

うネ

うネ

うネ



「あっ やっ やだっ！
太いっ！ お尻の穴
にまぐ……！」

「は 離せっ ♡
ずばずば
するなあっ ♡」

「あ あ あっ ♡
だめ え え えっ ♡
そんな大きいの
入らないいっ ♡」

クワン

「はっ ♡ はっ ♡ はっ ♡」

ぐわん

ぐわん



「たま子ちゃんのお尻の肉モチモチだねえ」

「んっ……んっ……ふんっ……」

「たま子ちゃんの膣に僕の精液を染み込ませるよあっ」

「んっ……んっ……んっ……」

「たま子ちゃんのお尻の肉モチモチだねえ」

「はっ……はっ……はっ……」

「薬の効果が切れるまでしばらくそのまま楽しんでねえ」

「あ……あ……あ……」

ゴポッ

んっ……んっ……んっ……

はっ……はっ……はっ……

んっ……んっ……んっ……

んっ……んっ……んっ……

んっ……んっ……んっ……

「はあ はあ……
酷い目に遭った……」

「全く油断できん！
次はどこから
来るんだ……!?!」

「きゃああああんっ♡♡♡♡♡」

「な なんぞっ!?!
だ 誰も居ないのにっ!」

「まさか別の場所から
レイプされてるっ?
は 激しっ♡ だめえっ♡♡♡♡♡」





「あっ ああっ！
やめろっ！
壁の向こうで
何をしてゐんだっ！」

「あーっ
いんちの
いやああ……」

「あーん
おいひっっ
美少女おっば
なめなめ♡」

「うひっ♡
エロっ♡
うひっ♡
エロっ♡」

「いっ
いやあっ！
やめてええっ！」

「うひっ♡
なかだし
なかだし♡」



「いやだっ！
中学生なのに
出産なんが
いやだっ！」

「ううそっ！
まさかあの
触手の奴が!?」

「えっ………!?」

「離せこの！
気色悪い！」

とどど

「行っちゃいやんなら
モロと遊ばあつ♡♡♡」

「なんだ
気分が……？」

「………」

びびり
びびり

びびり
びびり

ぼて



「ああ……
私はママちゃん……
勤弁して……」

「おぎやあ……
おぎやあ……
うひやひや……」

「はあ……
はあ……
はあ……」

「ひびっ ひびっ……
ふらっ ふらっ……
はひっ はひっ……
早く出てええっ……」

「おぎやあ……
おぎやあ……
うひやひや……」

「おぎやあ……
おぎやあ……
うひやひや……」

「おぎやあ……
おぎやあ……
うひやひや……」

「おぎやあ……
おぎやあ……
うひやひや……」

「おぎやあ……
おぎやあ……
うひやひや……」

「おぎやあ……
おぎやあ……
うひやひや……」



「はぁ はぁ
なんだコレ?」

「市しかして
霊具って
コレか!?」

動かすな
融るな

封印中!!

「うっひっひ!!
こう使うんじやよお!!」

「う美!?
お前まさか
乗っ取られた
のか!?!」

「うひひ、ご名答!
そしてコレは
悪の力を増幅する
呪具なのじやよ!」

「手下達が流した
噂にまんまと騙され
おって……
うひゃひゃ!」

「ぞっ
ぞんなっ」

「ついに
手に入れた
ようだな……」

「う美!
無事だったのか」
「コレどうやって
使うんだ!?!」

「逃げても無駄じゃ!
お前はワシの性奴隷
なんじやからなりっ!」

「や やだっ!
誰か助けてえっ!」

だだだっ

のい のい

ヒッヒッ!!



「んふーっ……んふーっ……」

びび

びび

あははは、あははは、あははは、

「んぶつ ンぶつ ンぶつ……」

「上手じゃん
たま子ちゃん！
性奴隷向いてる
んじゃない？」

ちろん

「んううっ……んぶつ ンぶつ……」

「もう出すよ
たま子ちゃん！
たっぷり飲んで
もうからね！」

「んううっ……」

「んふーっ……んふーっ……」

「そんな顔で睨まれたら
ソクソクしちゃうなア！」

「んふーっ……んふーっ……」

びび



「そこのロッカーが空いてるから隠れなよ〜」

「はぁ はぁ……喉がイガイガする……」

「おい！夫ま子を知らんか？」

「いや、見てないですねぇ〜」
「そうか〜〜〜」
「知らんか〜〜〜」

「にゅっ！」

「んっ!?」

「しっ！静かにしないで邪姦様にバレちゃうわよ？」

「ずるんっ！」

「んっんっんっ……」

「大丈夫、ちよつとおまんこ使うだけだから♡」

「ちよつとだけ♡ちよつとだけ♡」

「ほちんっ！ほちんっ！ほちんっ！ほちんっ！」



「み 見つけた
出口だ……」

「は 早く
逃げなきゃ……」

「こ 子供に
なってる!?」

「うひひひっ！
オイラの
若返りの術で
えっちで可愛い
ロリっ子ちゃんに
なれたねっ！」

「ま まさが……
この身体
私を……」

「レイプアツツ!!」

「やだっっっ!!」

「えっ?」

「すんっっ……」

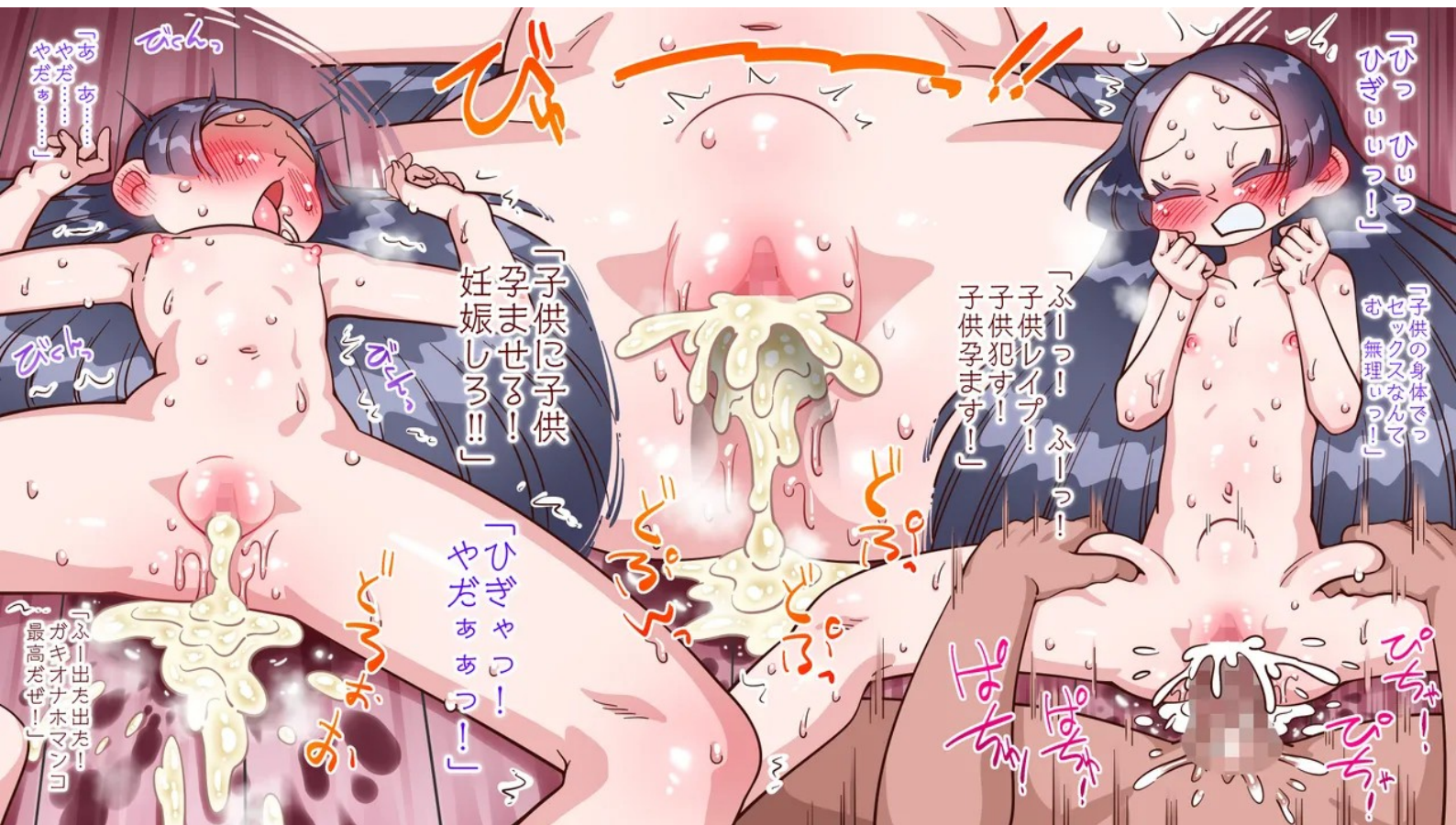
「んっ!!」

「あっ あぐっ
やだっ 苦しいっ!
この身体じゃ
おちんちん
大きすぎるっ!」

ぬんっ
ぬんっ
ぬんっ

ガッ

ガッ



「ひっひっひっ
ひぎこじっ」

「子供の身体でっ
セックスなんて
お無理じっ」

「ふっ！ ふっ！
子供レイプ！
子供犯す！
子供孕ます！」

「子供に子供
孕ませる！
妊娠しろ！！」

「ひぎやっ！
やだああっ！」

「あーあ
やだ
やだあ」

「ふっ！ 出た出た！
ガキオナホマンコ
最高だぜ！」

「んんん
おっ
おっ
おっ」

「おっ
おっ
おっ
おっ」

「ひっ
ひっ
ひっ
ひっ」



「……」

「目覚めたようじゃな
お前はもうワシの手中じゃ！
逃げる事は出来んぞ！」

「ひうっ……
そんな……」

「ひゃひゃひゃ！
ぬめったいのう！
犯されまくってすっかり
膣が出来上がってるわい！」

「あっ♡ あっ♡
奥だめっ♡ あっ♡
届いてるうっ♡」

「完全体となった
ワシのペニスに
勝てる女なんぞ
おらんのじゃ！」

femur

ぬ
ひん
ひん

お
お
お

お
お
お

び
び
び

び

び
び



「あつ あつ♥
あぁあつ♥あぁ
注がれてるうう……♥」

「子宮タプタプに
サれてるうう……♥」

「ふーっ
お前の身体も良いが
このデカ乳女の身体も
動きやすくていいわいー」

「はーっ♥
はーっ♥」

「しかし
すっかり女の顔に
なっちゃもんじゃ！」

「はあ……
はあ……」

「そのうるんだ目が
もってレイプしてくれと
物語ってるぞー」

「ちゅーちゅー」

「はーん」

「ガク」

「お望み通り 何度だって
犯してやるがらのぞー」

「ゴッゴッ」

「びろろ」

「びろろ」

「ちゅーちゅー
ちゅーちゅー
ちゅーちゅー」

「んっ……」



「どれどれ
ではまずは俺が
味見を……」

「お！
こりゃ確かに上玉だ！
中学生とは思えない
上品な膣ヒダが
ペニスに絡みつくぜ！」

「あっ♡
やだっ♡
あっ♡
やだっ♡」

「しかもレイプで身体は
大喜びだと来てやがる
性奴隷の素質十分だな！」

「はっ♡
中出てる♡
せーえき出てくる♡」

「あはあ
あああんっ♡♡♡」

「中出しのたびに
意識飛びかける程
イってやがるぜ」

「脳みそがマンコと直結して
ペニスの刺激中毒に
なっちまってるみてえだな」

「はっ♡
中出てる♡
せーえき出てくる♡」

「あはあ
あああんっ♡♡♡」

「あっ♡
やだっ♡
あっ♡
やだっ♡」



「なになん
なんだコノ
馬鹿みたいな
恰好は……！」

「いやーん
可愛いっ
似合ってるわよ
たま子ちゃん♡」

「にゃんにゃん
喘ぎなさいっ♡」

「あっ♡♡♡
にゃ にゃんっ♡
にゃんっ♡ にゃんっ♡」

「にゃああんっ♡♡♡」

「にゃはああ
ああんっ♡♡♡」

「うふふ♡
よくできました！
はい、ご褒美♡」

「にゃあんっ♡♡♡」

あーん！

あーん！

あーん！

あーん！



「あぁっ そんなっ
また妊娠してっ!!」

「この時間の流れは
どうなってるんだっ!!」

「ひーっ! ひぎっ!」

早く出てけっ!
私の体から……
出ていけえっ!!」

「大変そうね
手伝って
あげるわ♥」

「あっ あっ
やめっ……!!」

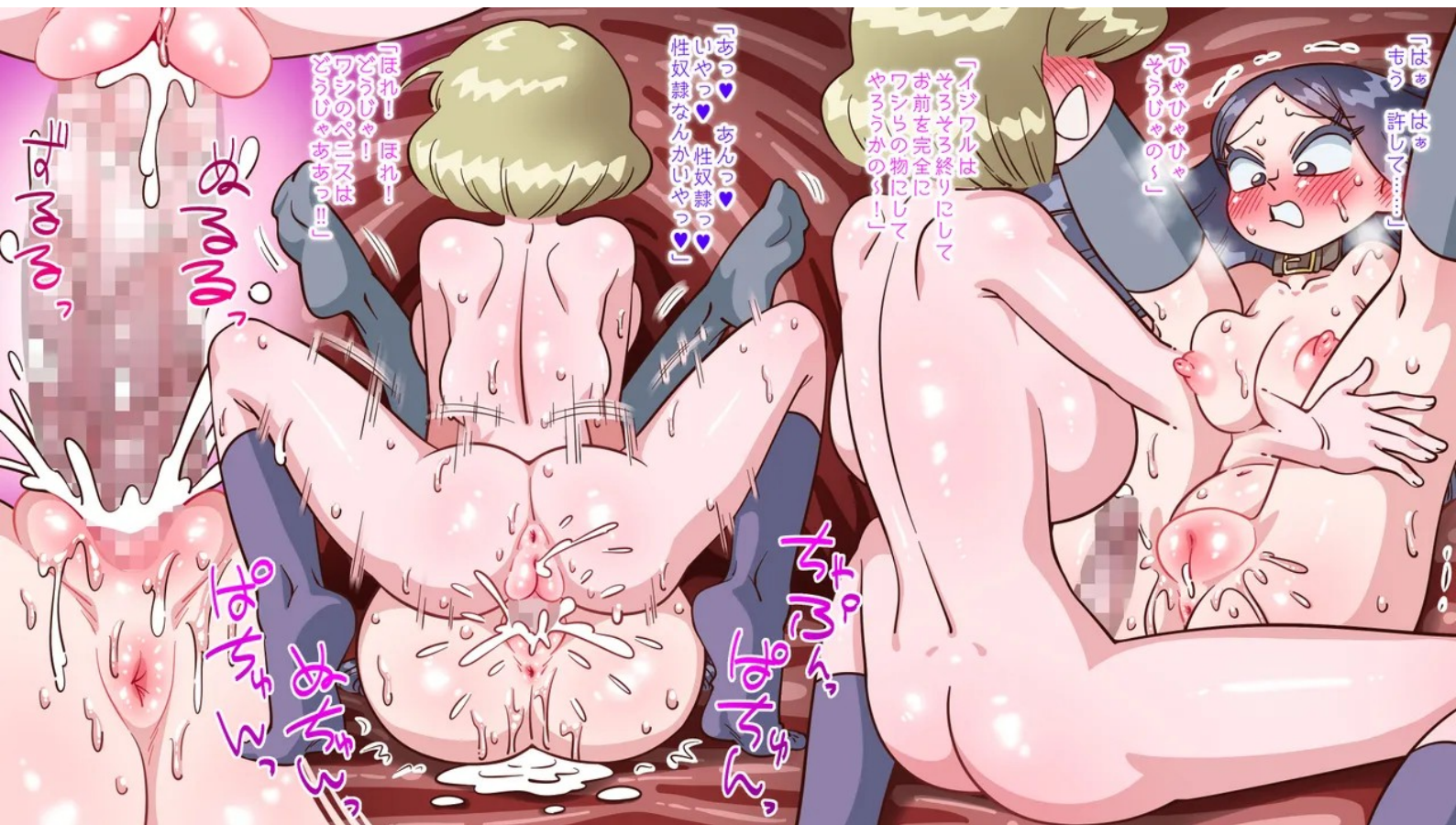
「ひいんっ!!」

「すくすく育って
ママをレイプ
しましよっね♥」

「うひゃっ
ママ
れいぶっ」

「はい
お誕生
おめでとう♥」

「はい
お土産♥」



「はぁはぁ...」
「もう許して...」

「ひゃひゃひゃ
ぞうじやの〜」

「イジワルは
そろそろ終りにして
お前を完全に
ワシらの物にして
やろうかの〜!」

「あっ♡ あんっ♡
いやっ♡ 性奴隷っ♡
性奴隷なんかいやっ♡」

「ほれ! ほれ!
どうじゃ!
ワシのペニスは
どうじゃああっ!!!」

ぞろぞろ

ぞろぞろ

ぞろぞろ
ぞろぞろ
ぞろぞろ

ぞろぞろ
ぞろぞろ
ぞろぞろ



「んほっ♡
おほっ♡」

「んほっ♡♡」

「...へ？
なんだこれ!?
私どうなってるんだ!？」

「うへっ♡♡
身体ゲツトオー〜」

「えっ♡♡」

「淫乱美少女
中学生の
たま子ですっ♡」

「わ 私の身体で
変な事言っな!」

「ひゃっひゃっひゃっ
こうやってもっど
人間の身体を
奪ってやるわい!」

「コッ
コッ」

「流石ですわ
邪姦様♡」

「ごっごっ♡♡」



「ひゃっひゃっひゃっひゃっひゃっ
どんな気分じゃあ？」

「くそっ……!!
覚えてろ!!」

「ちよっどく!!!
私の身体
返しなさいよ!!!」

「あぁんだめくっ♥♥♥
たま子さんテクいいくっ♥♥♥♥♥」

「たぶん♥
ちよっ可愛がって
あげてわ♥」

そそそそそ

だっだっだっ
あゝあゝあゝ

終